

大切なのは 地域の人たちの あたたかい心です

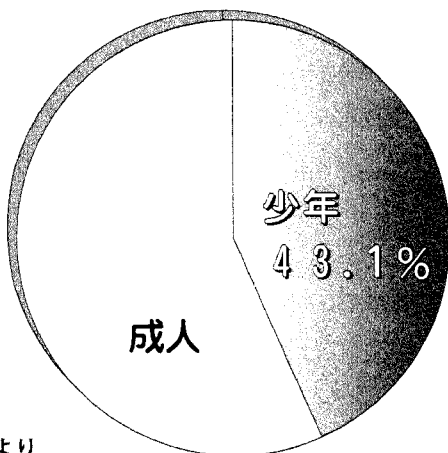
刑法犯の約4割を占めているのが14歳から19歳の子どもたちです。非行の内容をみると、万引きやいじめなどの暴力事件のほか、最近では、覚せい剤などの薬物乱用が中高生にまん延するなど、非常に憂慮すべき状態になっています。

大切なのは、犯罪や非行を防止するとともに、罪を犯した人や非行に走った子どもたちが更生して円滑に社会復帰できるよう、周りの人たちが手助けをすることです。

毎年7月は、『社会を明るくする運動』強調月間です。「地域住民の理解と協力により、罪を犯した人や非行に陥った少年の更生を支える」を重点目標に、全国でさまざまな運動が展開されます。

みんなの力で明るい社会を築こう

刑法犯に占める少年の割合



犯罪白書より

犯罪や非行のない、明るい社会を築くための第一歩になります。

犯罪や非行のない、明るい社会を築くための第一歩になります。

犯罪や非行のない、明るい社会を築くための第一歩になります。

平成七年の刑法犯認知件数は約二百四十三万件で、昭和五十年以降、ほぼ一貫して増加しています。特に少年非行については、検挙人員の約四三%を十四から十九歳の子どもたちが占め、また、そのうちの約六六%が十六歳までの低年齢層の子どもたちという深刻な状況です（『犯罪白書』より）。非行の内容では、非行の始まりに見られる万引きやオートバイ・自転車盗難がほとんどです。そのほかには、いじめが原因などで起こる暴力事件などがありますが、最近最も心配されているのは、シンナーや覚せい剤などの薬物乱用問題です。薬物乱用で補導される子どもは、年々低年齢化しています。

円滑な社会復帰には 周りの支援が不可欠

子どもが非行に走る背景には、家庭環境や交友関係など多くの要因が複雑に絡み合っています。非行防止にはまず、こうした問題を一つひとつ解決し、非行を誘発しないような社会環境をつくることです。また、非行に陥った子どもたちが更生して円滑に社会復帰できるためには、本人の強い意志はもちろんな、家庭や職場、学校など周りの人たちの支援がかかせません。非行や犯罪は、地域社会の中で生まれます。そして、罪を犯した人が更生してもどってくるのもまた、地域社会です。更生した人を色メガネで見たり仲間外れにしたりすることは、再び犯罪や非行を呼び起こすきっかけにつながります。失敗はだれにでもあります。大切なのは、同じ過ちを繰り返さないことです。こうした積み重ねが犯罪や非行のない、明るい社会を築くための第一歩になります。

気軽に参加できる ミニ集会

毎年七月は、『社会を明るくする運動』強調月間です。「地域住民の理解と協力により、罪を犯した人や非行に陥った少年の更生を支える」を重点目標に街頭キャンペーンやミニ集会（対話集会）などが地域ごとに全国で行われます。ミニ集会是、隣近所の人たちが気軽に集まって身近な問題を話し合う、いわば井戸端会議のようなもので、地域でのお互いの連携を深め、また運動をすすめていくための大きな原動力になっています。こうした地道な活動とみんなの協力により、安心で住みやすい地域をつくりあげていくことができます。

『社会を明るくする運動』について詳しく知りたい方は、最寄りの保護観察所までお問い合わせください。

